

# 下水道事業の決算状況

## 1. 年間業務量

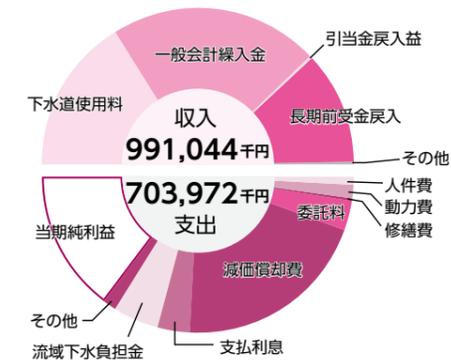
区分	令和5年度	令和4年度	比較
①行政区人口	15,102人	15,129人	△27
②水洗化人口	13,375人	13,361人	+14
③汚水処理戸数	5,448戸	5,399戸	+49
④普及率(②/①)	88.6%	88.3%	+0.3
⑤年間総処理量	1,386,597m <sup>3</sup>	1,384,696m <sup>3</sup>	+1,901
⑥処理有収水量	1,244,634m <sup>3</sup>	1,239,414m <sup>3</sup>	+5,220
⑦有収率(⑥/⑤)	89.8%	89.5%	+0.3



令和5年度は、令和4年度と比べ、全体では水洗化人口、処理有収水量とも増加となりましたが、個別に見ると、公共下水道事業は増加したものの、農業集落排水事業と浄化槽事業は減少しています。

## 2. 経営状況

### ①収益的収支(税抜き) …汚水を処理するための経費とその財源



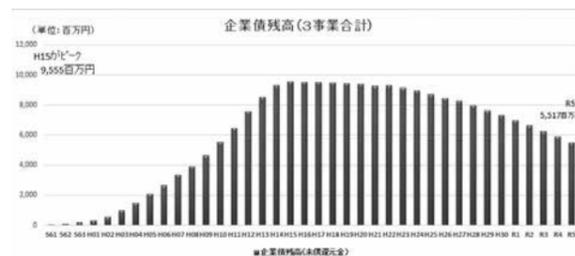
収入では、有収水量の増加により、使用料収入は前年度と比較して1.0%増の3億2,343万円となりました。収入全体では9億9,104万円となり前年度と比較して10.7%の増となりました。  
支出では、経費の節減を図った結果、支出全体で7億397万円となり前年度と比較して2.0%減となりました。  
これにより収支は2億8,707万円の純利益(黒字)となりましたが、収入には長期前受金戻入という非現金収入が含まれていて、この非現金収入を除くと令和5年度は実質5,806万円程度の利益となるほか、利益の一部を資本的収支の不足に取り崩しており、厳しい経営状況となっています。

### ②資本的収支(税込み) …下水道施設を整備するための経費とその財源

資本的収支では、収入額3億9,560万円に対して支出額は7億6,281万円となり、3億6,721万円の不足となりました。その不足に対しては、水道事業と同じく減価償却費等(非現金支出)や積立金を取り崩して補てんしましたが、それでもなお不足するため当期純利益を取り崩して補てんしています。

建設改良工事は、国道4号拡幅工事に伴う排水管の移設工事や、公共下水道事業では北羽沢及び矢来北マンホールポンプ場設備等の更新、農業集落排水事業では下永沢地区処理施設の機能強化工事(繰越事業)及び永南地区処理施設の機能強化工事を実施、浄化槽事業では撤去工事1基および新規設置工事3基を行いました。

下水道事業会計の中で1番費用が大きい企業債償還金は6億3,305万円であり、その返済にかかる利息は6,961万円となっています。返済する財源が不足しているため、新たに約1億8,990万円の借入を行いました。それにより令和5年度末での企業債(借金)残高は、前年度より3億5,585万円減少し、55億1,704万円となりました。



## 下水道事業の経営課題

下水道事業会計は厳しい経営状況が続いていますが、経費の削減及び業務の効率化等に努めてきた結果、下水道事業中期経営計画で見込んでいた純利益を上回る額を確保しており、その結果、計画に対して直ちに資金不足にはならない見込みのため、令和7年度の使用料改定については、実施しない方向で検討しています。一方で、一般会計からの多額の繰り入れや企業債(借金)に大きく依存していることや、資本的収支の不足額に内部留保資金(減価償却費や利益等)をほぼ使い切っており、今後見込まれる老朽化への対応や災害等へ蓄える資金の確保が課題となっています。

# 水道事業の決算状況

令和5年度

## 1. 年間業務量

区分	令和5年度	令和4年度	比較
①行政区人口	15,102人	15,129人	△27
②給水人口	14,775人	14,805人	△30
③給水戸数	5,978戸	5,948戸	+30
④普及率(②/①)	97.8%	97.9%	△0.1
⑤年間配水量	2,952,963m <sup>3</sup>	2,837,516m <sup>3</sup>	+115,447
⑥給水量(年間有収水量)	2,382,311m <sup>3</sup>	2,374,556m <sup>3</sup>	+7,755
⑦有収率(⑥/⑤)	80.7%	83.7%	△3.0

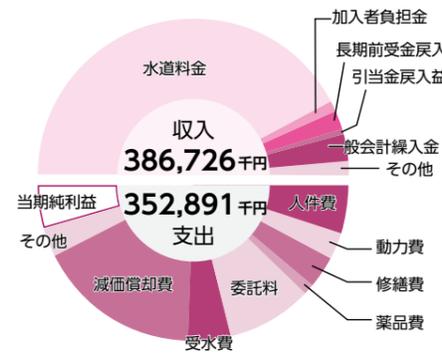


令和5年度は、令和4年度と比べ給水人口は減少となりました。給水量は、家庭用や営業用などが減少しましたが、工業用の増加が大きかったことから全体では増加となりました。

# 水道事業決算状況

## 2. 経営状況

### ①収益的収支(税抜き) …給水するための経費とその財源

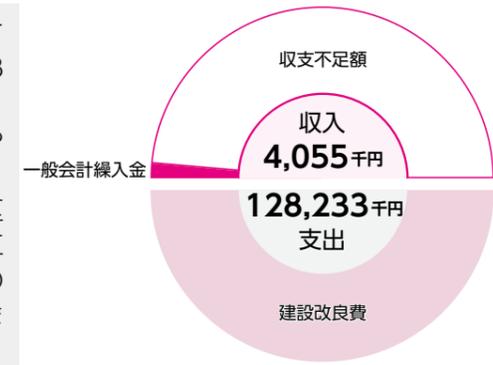


収入では、料金収入は前年度と比較して0.6%増の3億1,740万円となりましたが、収入全体では3億8,672万円となり、前年度と比較して0.6%の増となりました。  
支出では、修繕費や薬品費、委託料などの増加により、支出全体で3億5,289万円となり前年度と比較して1.6%増となりました。  
これにより収支では、3,383万円の純利益(黒字)となりました。

### ②資本的収支(税込み) …水道施設を整備するための経費とその財源

資本的収支では、収入額405万円に対して支出額は1億2,823万円となり、1億2,418万円の不足となりました。その不足に対しては、内部留保資金の減価償却費等(非現金支出)や積立金を取り崩して補てんしました。

建設改良工事は、永沢長坂後地区他3地区で老朽化した水道管の更新や国道4号拡幅工事に伴う移設工事、中央浄水場の受変電設備の変更及び非常用発電設備の更新工事を実施しました。



## 水道事業の経営課題

水道事業会計は、長年にわたり安定経営を維持していますが、今後は人口減少等により給水量は減少していくものと思われる水道料金収入の減少が見込まれる一方で、老朽化が進んでいる浄水施設や配水管などの維持管理費や更新事業費、国道4号拡幅にかかる配水管の移設費、更には、広域水道用水供給事業からの受水に向けた施設整備が令和9年度から始まるほか、令和11年度には広域水道用水供給料金の基本料金値上げが見込まれるなど、今後費用が増加していくことから、これらの財源の確保が課題となっています。

※官庁会計では、収入を歳入、支出を歳出とし、それぞれの合算を差し引いたうえで剰余金を計算しますが、水道事業会計と下水道事業会計は民間企業と同様の「公営企業会計」を適用しており、収益的収支と資本的収支とに区分して経理しています。収益的収支が黒字の場合、民間企業であれば株主への配当などに使われますが、公営企業会計の場合は、施設の改良などに必要な経費(資本的収支)の不足額を補てんする財源として、建設改良費や過去に借入した企業債の返済に使われます。